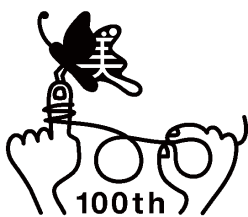


百年の足跡、無限の未来へ
 おおぞら
 ～大宙へ…双蝶～



松本美須々ヶ丘高等学校 2009 (H21) 創立100周年

母校愛の薄い要因がそれらにあるとしたならば、私たちは創立百周年を契機に、時代の

母校を温かく見守り、在校生と同窓生の絆を結ぶ象徴の館として、記念式典に合わせ、正面玄関南西の美須々ヶ丘の森の一面に建設する運びとなりました。

さて待つこと久しい仮称「美須々ヶ丘教育会館」が学校、そして関係する皆様のご理解とご協力により、記念事業の大きな柱として、正面玄関南西の美須々ヶ丘の森の一面に建設する運びとなりました。

創立百周年を契機に、それぞれの思い出を連鎖し、絆を確かめ合い、心を一つにして母校愛を深め、次なる百年に引き継ぐことがまさに創立百周年の大きな意義である

戦後、中学校一校と女子校二校が合併す

現在本校は、八四二名の生徒諸君が、六五名の教職員の支えのもと、学業に生徒会・部活動に関連に取り組んでおります。本校の目指す「日常生活の基本を原点に、自治能力に満ちた校風、文武両道の気風」という学校デザインは、生徒達自身が求め、より高めようとするところにその大きな特徴があると思えます。



創立百周年の本年に想う

校長 安藤 善二

新制松本市立高等学校のスタートにあたり、新しい民主教育の基本理念である男女共学をいち早く体現し、また、その特色の一つである生徒会活動やクラブ活動などの特別教育活動を重視したところに、この校風・気風の始点があり、男女平等思想のもと生徒一人ひとりの個性の伸長と発達を促すため、職員生徒が「教師」「生徒」という立場を離れ、研究討議論じ合う風を生み出した。それも校舎焼失の学校危機に

このみずの丘が、責任と自律を知る自治と自由の風、自らを高め深めんとする希求の香りに満ちる進化の舞台であることが、新しい百年を迎える松本美須々ヶ丘高校の、求められ目指す姿であることを改めて期する本年です。



百年の足跡を無限の未来へ

同窓会長 福島 昭子 (S26卒)

我が母校松本美須々ヶ丘高校は、来る十月十日創立百周年を迎え、県松本文化会館を会場に盛大に記念式典が挙行されます。その創始は明治四十二年（一九〇九）松本市立女子職業学校として、松本城に隣接する深志の里に、呱呱の声を上げたことに始まります。

頂き心から敬意と感謝を申し上げます。

在校生も吹奏楽部を始めとする活発な部活動や学力の向上と人間性の涵養に務め、伝統に更なる輝きを増して頂き、同窓会と致しまして母校の誇りとして感謝とエールを送らせて頂いております。

さて待つこと久しい仮称「美須々ヶ丘教育会館」が学校、そして関係する皆様のご理解とご協力により、記念事業の大きな柱として、正面玄関南西の美須々ヶ丘の森の一面に建設する運びとなりました。

代の変遷の中で多様性を受け入れ、認め合歴史を紡いだことに誇りを持たなければならぬと思うのです。

そんな母校に思いを馳せた時、それぞれの時代の青春の思い出が、いま物語のように蘇ってくることでしょ。

創立百周年を契機に、それぞれの思い出を連鎖し、絆を確かめ合い、心を一つにして母校愛を深め、次なる百年に引き継ぐことがまさに創立百周年の大きな意義である

り、お世話になった社会への報恩になるのではないのでしょうか。

混沌とした社会背景の中で改めて今私たちの生き方が問われています。特に百年に一度と言われているのでしょうか。それは量から質へ、物から心への価値の転換です。他者を思いやる優しさや、多様性を認め合う助け合いの社会の創出ではないのでしょうか。多様性を認め合い、脈々と歴史を紡いで

我が母校松本美須々ヶ丘高校の百年の足跡を「喜びをもって共に生きる」共助の校風として、在校生と共に無限の未来へつなげましょう。

心に残る意義ある記念事業を願い、同窓生の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

結びに、皆様のご多幸と母校松本美須々ヶ丘高校の益々のご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



第5号
2009. 7. 1

発行 長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会
 〒390-8602
 長野県松本市美須々ヶ丘高等学校内
 TEL・FAX (0263) 33-2560 (事務局直線)
 ホームページ
<http://www.mcccl.or.jp/www/misuzu100/>
 メールアドレス misuzu100@po.mcccl.or.jp

印刷 SALAT (株) サラト

私たちの同窓生

会員数 31,295人
 在校生 842人
 (男396、女446)

平成21年4月現在

前身学校

長野県市立松本女子職業学校
 長野県松本高等家政女学校
 長野県松本市立高等女学校
 長野県松本市立中学校
 長野県松本市立女子商業学校
 長野県松本市立高等学校

百周年にあたり(ご報告とお願い)

創立百周年記念事業実行委員会

実行委員長 山 元 秀 泰 (S47卒)



同窓会諸兄弟姉におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。実行委員会は設立以来3年9ヶ月が経過し、百周年準備委員会からになりますと、5年3ヶ月という時間が経過しましたが、いよいよ、百周年を迎える年になりました。この間、ご指導ご助言ご協力いただきました関係各位に衷心より御礼申し上げます。

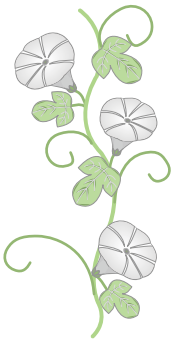
本年は、いよいよ美須々ヶ丘教育会館(仮)の起工式も終了し、10月10日の記念式典当日には皆さんにお披露目できると思います。同窓生諸兄のご利用はもとより、現役生徒さん方の自習室始め有効にご利用いただけるよう、予算の範囲で検討を重ねました。式典におきましても、3万人を超える同窓生も皆さんの「想い」すべてを具現化する事はできませんが、それらの「想い」を集約した一日になるよう準備を進めています。

生徒会の皆さんも、本格的に参加いただく体制になり、心強い限りです。6月には生徒会の皆さん・先生方・保護者の皆さんにもご協力いただき、昨年に引き続きインターロッキングを敷設し、校内の美化清掃に汗を流しました。お一人お一人のお力が素晴らしい力になっていきます。嬉しいと同時にありがたい限りです。また、多くの方からの募金も本当に感謝しております。しかし、未だ目標金額まで届きません。教育会館は建設できたものの、室内の机やイスはじめ什器備品を買う予算があ

りません。今日の経済状況下で、各位の台所も大変な事と存じます。同窓生約3,000人の皆さんからご芳志をいただきましたが、まだ、一割の皆さんでしかありません。金額は問いません。お一人でも多くの皆さんのお心をいただき、これからの同窓会や生徒の育成に寄与できるようにしてまいりたいと思います。なにとぞ、ご理解をいただきご賛同いただきますようお願い申し上げます。

百周年は温故知新。建学の精神・校章校旗などに込められた想いや希望・目標はそれぞれ異質で特徴的であつたでしょう。過去を振り返り、先輩諸兄が何に向かい、どんな想いで学生生活を送られたのでしょうか。そんな歴史や伝統に思いをはせ、100年を節目として新しい歴史を作り、未来に向かい始める再スタートの場でありたいと思います。

今回の会報には、式典・祝賀会の出欠、記念誌の予約等のご案内も兼ねさせていただきます。それぞれご吟味いただき式典当日は、お友達を沢山お誘い合わせてご出席賜りますようお願いいたします。また、記念誌も全力で編集集中です。ご期待いただきご予約をお願い申し上げます。



先輩から後輩へ贈り物

同窓生の皆さん！ 有難う！

会館建設委員会委員長 奥 熹 (S38卒)

「先輩からの心の絆を後輩に形として繋げよう」との願いから進められている美須々ヶ丘教育会館(仮称)の安全祈願祭が5月23日に行なわれました。

同窓会での会議として百周年記念事業実行委員会での会議において「建設か否か」の論議を幾度となく行なってきた。そして「建設する、しない」を含め、教育会館検討委員会が設置され、同窓会館のある他校への視察や意見交換、またインターネットによる状況調査などを経て意見書が出されました。その意見書を受け昨年の同窓会総会において正式に建設することが決定されました。

直ちに、建設委員会が設置され、どのようなものを、どこへ建てるのかを含め、同窓生である、ゆい建設事務所さんに図面の作成をお願いし、それをもとに5回の建設委員会、4回の百周年記念事業実行委員会との会議を重ね、論議をしてきました。まず、建設する目的がこれからの次代を担う若い人たちを育成し、併せて今希薄になっている人間関係を結ぶ大切な場と位置づけ4本の柱を立て進めることとなりました。

- ①同窓生の心の拠り所とし、活動する場
- ②在校生と同窓生が交流する場
- ③在校生が学習する場
- ④地域と学校、地域と同窓生・在校生が交流する場

まずはじめに、建設場所を1案針塚等がある林の中、2案それ以外の場所とし、ゆい設計事務所さんより論議のたたき台である7プランの平面図をいただき、各委員の思いを重ね論議をしていただきました。委員の思いは多くあり、そ

の後30におよぶプランの作成をお願いし、更なる論議を深めて参りました。

建設場所については、最終的に林の中だと①何本かの木を切らなければならぬこと。また太い木の根が多方面に張っており切らなくても木にとつてはダメージが大きいこと。②林の中は過去にいろいろな物を埋め立てた経緯があり、土壌の入れ替えが必要と思われること。③建設工事の際大型トラックや重機等が自由に動くことが出来ないこと。④水周り等の配管が遠くなり、費用面に負担が掛かること等々から2案である管理棟の玄関口から近い自転車置き場の一部を取り壊し、その地に建設を行なう事となりました。建設規模も今の社会情勢を踏まえた場合、寄付をいただくのは大変厳しいのではないかと予測から、建設費用については寄付より3千万円、先輩の役員の皆さん方が映画会等を計画しこつこつと貯めていただいた預金の内より1千万円を支出し、全てで4千万円と決めました。その結果規模は縮小せざるを得ませんでしたが、増築可能な設計としていただきました。

これ等を元に諸条件を付け、10社を選定し入札をいただきました。また建築関係の専門家を入れた選定委員会を立ち上げ、外観、仕様内容及び材質、見積額等を2回の会議を持ち、そのうえで2回にわたる無記名投票で(株)松本土建さんを選定しお願いすることとしました。是非一度建設現場においていただき、建設の様子等をご覧いただきたいと思っています。

先日、市高時代にご卒業された先輩の

同窓会館の完成イメージ図



方にお会いした時、その先輩は「私どもの時は学校が転々とし、学校に対する愛着がどうしても薄く、心の拠り所がなかった、でもこうしたものが出来ることは後輩に対していいことだ」との話をしてくださり、併せて寄付のお約束もしていただきましたが、先輩の皆さん方も心のどこかで心待ちにしておられたのではないかと感じ、私たちの進む方向が間違っていないかと思いました。

建設後は県に一旦寄付をするという形をとりますが、同窓生の憩いの場として、また在校生にとって学力向上の学習の場として利用できますので、大いに利用していただきたいと思っています。最後になりますが、4千万円はあくまでも建築費用のみで建物の中の備品類は入っておりません。是非より一層のご寄付をお願い申し上げます。

記念式典に参加しませんか♪

創立100周年記念式典

記念コンサート祝賀会のご案内

■ 日 時 平成21年(2009年) 10月10日(土)
13:00

■ 会 場 長野県松本文化会館 大ホール

開 式 前 記念VTR上映

記念式典

記念コンサート 大林修子さん(N響ヴァイオリニスト) 吹奏楽部 他
会場ロビーに同窓生の各部門作品展示を予定します

祝 賀 会 中ホール 15:30~17:00 3,000円会費制

10月3連休の初日です。クラス会・同期会・クラブOB会などを式典に併せて企画されてはいかがでしょうか。参加ご希望の方は、同封のハガキに必要事項をご記入の上、8月15日までにご投函下さい。追って案内状を送付いたします。

大林修子プロフィール

S54卒 ヴァイオリニスト 東京藝術大学卒業後、MHK交響楽団入団。
N響でのオーケストラ・室内楽の活動に加え、金昌国氏が手がける「アンサンブルofトウキョウ」のソロ及びコンサートマスターを務める。
「第50回毎日音楽コンクール」第3位。「第26回海外派遣コンクール」松下賞。
「バガニニ国際音楽コンクール」特別賞。松本市芸術文化奨励賞を受賞。



美須々ヶ丘セミナー 創立100周年記念講演会

『学ぶということ』(仮)

■ 講 師 竹内 雅^{やすし} S22市中学卒

明治大学理工学部名誉教授(東大卒)

■ 日 時 8月25日(火) 午後1:20(予定)

■ 場 所 学校大体育館

在校生・同窓会員・保護者・一般を対象とした講演会を開催します。

参加希望の方は同窓会事務局へお問い合わせ下さい。

あの頃のあなたにきっと出会える!!

創立百周年メモリアル文化祭

「美須々楽市」開催

記念催事委員会では生徒会と共同で、来る7月11日(土)双蝶祭一般公開日に記念すべき節目の年の文化祭を「みすず楽市」と称し、百年の足跡を辿るとともに、今後に向かって地域に根付いた「みすずの心」を広く発掘紹介し、同窓生及び関係者相互の一層の連携を深め10月10日の記念式典に向け更なる機運の醸成を図って参りたいと考えております。

大勢の方のご来場を心からお待ちしております。

■ 日 時 平成21年7月11日(土)

午前10時~午後3時

■ 会 場 松本美須々ヶ丘高等学校大体育館

■ プログラム

100年の思い出展

古い校舎の写真をはじめ歴史年表・胸キュンの制服・歴代双蝶祭ポスター・記念誌・校旗・校章・同窓生の絵画・書などの文化作品並びにあの日が鮮やかに蘇ってくる数々の懐かしい展示品のほか現在校舎敷地内に建設中の(仮称)「美須々教育会館」の完成予想写真も展示します。

みすずの心交流展

地域に深く根を下ろし、いろんな分野で活躍、活動を続けている同窓生のその事業展開や活動状況をそれぞれのブースを設けて紹介します。

当日は、蟻ヶ崎西町会「蟻の会」の皆さんによる町会福祉活動 おやきの販売・知的障害者授産施設「共立学舎」の皆さんによる授産製品販売も予定しております。

また「おなじ空ネットワーク」の海外支援活動など個性でエネルギーあふれる活動を続けている20団体のブース出展を予定しております。

なお、10月10日(土)開催の創立百周年記念式典当日も会場(長野県松本文化会館大ホール)入り口ホワイエにおいて100年の足跡を辿る思い出の展示コーナーを設置いたしますので、どうかお誘い合わせのうえ会場に足をお運びくださいますようお願い申し上げます。

昨年9月20日(土)に学校創立百周年の記念事業の一環として、母校の中庭へ同窓生・保護者・生徒・職員の四者に依ってインタロッキングブロックの敷設作業に汗を流しました。中庭は生徒の憩いの場であり、双蝶祭の中心会場として使われておりますが、水たまりがでたり、石ころや雑草で荒れておりました。実行委員会の学校整備委員会を中心となり夏休みの前から企画をし、準備をして参りました。当日は当初の予定から雨で二度延期になったにも関わらず大勢の人が参加して母

勢の人が参加して母校の施設整備のためにお互いの親睦もはかれました。それぞれ立場の違う人達が一致団結して創立百周年に向け、この作業を通じて気持ち一つになった事でも大変意味深いと思います。特に生徒の皆さんが大勢参加して一生懸命作業に励んでいる姿は、OBとして大変頼もしく感じ自分の青春時代と重ね合わせて当時を思い出した一日でもありました。又OBの業者の方達の下準備や技術指導のお陰で無事予定しており、この会報が目に届くまで、今年度は二期に予定しており、この会報が届く頃には今年の延長工事が終わって中庭は今年の双蝶祭には更に使い易くなっていると思います。



学校整備委員会委員長
橋本 恵次(S40卒)

勢の人が参加して母校の施設整備のためにお互いの親睦もはかれました。それぞれ立場の違う人達が一致団結して創立百周年に向け、この作業を通じて気持ち一つになった事でも大変意味深いと思います。特に生徒の皆さんが大勢参加して一生懸命作業に励んでいる姿は、OBとして大変頼もしく感じ自分の青春時代と重ね合わせて当時を思い出した一日でもありました。又OBの業者の方達の下準備や技術指導のお陰で無事予定しており、この会報が目に届くまで、今年度は二期に予定しており、この会報が届く頃には今年の延長工事が終わって中庭は今年の双蝶祭には更に使い易くなっていると思います。

募金中間報告と御礼

「長野県松本美須ヶ丘高等学校創立百周年記念事業 趣意書」にもとづき、第2次「募金のお願い」を平成20年10月に同窓会員ほか関係者にお届けし、多くの皆様からご協力いただきました。ここにご芳名を掲載し、御礼に代えさせていただきます。（旧姓省略）

募金数 2,503件 募金総額 29,305,325円（平成21年6月15日現在）

(集計期間：H20.8.25～H21.5.20)

[illegible]

今	生	荒	青	山	山	百	村	宮	丸	浜	永	中	中	中	奈	梅	塚	塚	高	田	田	鈴	須	佐	小	小	小	木	加	大	小	遠	上	伊	伊	井	荒	浅	赤	赤	赤	青	横	横	山
福	駒	井	嶋	本	崎	瀬	山	島	利	山	春	野	西	沢	良	井	田	根	屋	村	中	木	藤	野	松	松	林	科	沢	坂	藤	松	出	伊	井	荒	浅	赤	赤	青	横	横	山		
好	千	益	貴	睦	美	榮	礼	利	智	君	代	千	裕	米	須	惠	敬	昌	千	保	史	佐	乃	常	絢	静	美	昇	鶴	作	笑	伊	東	上	井	輪	羽	羽	羽	木	山	崎	敏		
伯	枝	子	子	子	恵	薫	子	子	子	子	子	基	子	子	美	武	子	子	子	子	子	子	子	子	子	宏	重	子	美	美	津	久	綾	靖	宏	幸	和	節	威	雄	子				
S ₃₄	S ₃₄	S ₃₄	S ₃₄	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₃	S ₃₂	S ₃₂	S ₃₂			

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

西海	成田	成家	成裕	寺沢	高山	曾根	関崎	小松	小沢	山崎	百瀬	村山	宮坂	花野	徳嵩	田中	倉下	岡本	荒川	吉田	山口	山岸	百瀬	村瀬	武藤	宮崎	松澤	前田	西村	中沢	中井	鳥井	筒井	高井	田中	田中	田中	柴田	窪田	久保	木下	石川	山本	山本	柳沢
徳幸	鋭子	子子	子子	清広	まゆみ	和江	俊雄	喜二	恵一	佐智浩	子司	美寿子	麻里	明美	充子	寿勝	政弘	功子	久美子	克彦	恵子	俊子	孝明	博子	ふき子	恵一	寿美子	かおる	枝子	綾子	眞澄	菊世	増徳	繁子	はる子	雄治	憲宏	久務	義義	みどり	直子	秀泰	山利	正喜	
50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	49	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	47	47	47	47

二村久美子	中島隆司	手川岩雄	竹野佳代子	田村芳雄	田中徳子	杉山千枝子	塩原千枝子	清水喜美子	清水祐一	佐藤弘幸	小林真一	桐山朗厚	桐澤一雄	片桐みさお	太田多恵子	小口正俊	内川善敏	石井直樹	麻和住男	赤羽泰明	青木篤明	渡辺昌一	吉崎秋広	丸山ふゆの	古畑初美	藤森憲治	深沢秀享	根橋雄一郎	西口賢一	西崎夏子	長崎博章	斉藤元紀	倉田富美子	工藤八代子	(故)桐山宗明	神上明美	(故)伊藤昌得	麻原恒太郎	赤穂栄子	赤羽敏明	横原正幸	矢原恵幸	失台孝尚	西沢通代		
S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S51	S50	S50	S50	S50	
上條敦子	上健一	小上等	(故)山岸由里	矢ヶ崎良子	三村光正	丸山和久	成迫孝子	中島ひで子	内藤敏江	太田ふみ子	太田喜久	矢沢孝治	宮澤恒樹	三村順子	二木早苗	藤澤八重子	林邦広	花岡隆芳	高橋さつき	篠原功二	上村修	大林孝	柳澤敬	百瀬かおる	宮川睦彦	三村隆二	三沢真記	松倉勇厚	武井栄司	高山利治	高木順子	瀬川きぬ子	太田直樹	遠藤芳裕	宇留賀	吉管幹彦	山下智洋	百瀬正英	宮嶋寛	宮澤敬	三村初子	三村愛幸	古澤幸宏	西沢幸	二村正典	
S56	S56	S56	S56	S55	S55	S55	S55	S55	S55	S55	S55	S55	S55	S54	S54	S54	S54	S54	S54	S54	S54	S54	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S53	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52	S52
布山吉樹	西村和美	篠遠敬明	伊藤英浩	吉野礼宣	横田隆実	百瀬秀美	百瀬富志美	成迫富博	田中妙子	小坂晶巳	久保村公雄	横田冬彦	山中森栄	高野弥生	高瀬真一	小沢秀幸	柳原由美	宮坂祥子	細田光伯	野村智子	野田匡男	武井浩二	竹田道彦	田仲明彦	鈴木智勢子	菅谷圭寛	神谷久美子	勝野美行	大澤範裕	内田裕章	石黒元忍	赤羽美保	萬井路花	横山理栄	望月涉子	松崎博文	堀崎卓仁	北條順美	寺田淳久	寺島啓久	竹内弘里	鈴木マユミ	嶋木佳佳	北野博之		
S60	S60	S60	S60	S59	S59	S59	S59	S59	S59	S59	S59	S58	S58	S58	S58	S58	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S57	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56	S56
青沼優樹	分部由里	洞圭司	関貴史	庄弘美	渡会孝洋	本木美雪	細田瑞恵	降旗一幸	篠之井幸子	下川泰代	金子朋美	三井淳	百瀬喜志	布野良	立石みずほ	嶋谷尚史	新井茂吉	赤沢有紀	永井由香	上條学	山岸めぐみ	松田千賀子	船田洋一	布山泰恵	中野理恵	真田由里	浅田登喜子	吉澤史明	柳村誠茂	三井勝真	藤井幸真	福山夏菜子	齋藤益美	白井美洋	宮澤由美子	八田直美	田川純一	上條圭一	池上圭	永田高行	田中亜希子	郷津美佳	横山淑子	増山順子		
H9	H7	H7	H6	H5	H5	H5	H5	H5	H5	H5	H4	H4	H3	H3	H3	H3	H3	H2	H2	H元	H元	H元	H元	H元	H元	S63	S63	S63	S63	S63	S63	S63	S62	S62	S62	S62	S62	S61	S61	S61	S60	S60	S60	S60		
西原洋一	中田裕文	高井真也	興下弘み	伊藤弥紗	山本幸恵	百瀬幸恵	丸山東優	前澤建輝	橋本優伍	中田亜希子	杉本恭子	齊藤星舞	大久保朋一	井上道介	山崎鉄平	曾根邦朗	小林真希枝	小山由香理	前田直樹	降旗昌寛	平林宏	高橋香織	北浦千絵	木下信太郎	河津信太郎	川藤恵美	伊賀太起	松本朋子	平林こすえ	坪理恵子	高橋明巳	上條真奈美	小笠原真誠	赤羽英子	松尾周平	高野尚	住小竹	久保田仁	鎌田康治	奥原雄兼	遠藤紀繪	藤木良繪	伊藤哲綾			
H15	H15	H15	H15	H15	H14	H14	H14	H14	H14	H14	H14	H14	H14	H13	H13	H13	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H12	H11	H11	H11	H11	H11	H11	H10	H10	H10	H10	H10	H10	H10	H9	H9	H9	H9		
諸弘之	平岡沙知	花塚夏樹	中沢真衣	高山由香	高井信彦	曾根あゆ美	下坂努輔	小岩亮輔	草間美奈	工藤真利	上野恵美	上野慎恵	加嶋純美	飯嶋昭穂	五十嵐千穂	井村暢志	渡邊陽介	宮嶋奈々	古畑英里子	筒井聡志	神村美幸	太田さおり	大輪美香	遠藤志舞	今水結花	宮澤久実	丸山秀望	松宮末利名	平林麻衣子	原田明日香	武田拓也	高井裕了	塩原秀治	酒井穂慎	桐澤慎裕	松澤昭裕	長瀬はるか	竹内裕香	高嶋瑞枝	加々美祐一	望月祐平	丸山雄司				
H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H18	H17	H17	H17	H17	H17	H17	H17	H17	H17	H17	H16	H16	H16	H16	H16	H16	H15	H15	H15		
金原悠太郎	勝家美菜	加藤悠也	岡本名奈	大海いおり	大居昂裕	遠田友梨絵	植木絢遼	上松敬弘	上野恵美	上野慎恵	上井梨恵子	今井捺美	石曾根隆浩	池田優美	池田慎佳	伊藤裕悠	新井悠	浅井由衣	安藤優輝	高山祐央	吉田奈美子	務井久美子	三輪博樹	前田毅	前田島透弘	藤澤明日佳	廣島綾子	林曜平	西村楓	二村将世	中山智也	中村祐隆	竹内万里奈	鈴木双葉	北嶋悠佳	内嶋悠記	石黒諒彩	赤羽美加	赤津純也	赤穂広行	青柳慶祐	輪湖真梓				
在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	H21	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H19			
三澤優海	三山絵里	丸山隼平	丸山春香	増渕和枝	堀内翔	細萱芽衣	穂高麻衣子	藤森理恵	藤松真帆	藤澤航也	藤井忠明	平林秀隆	原直人	林あや乃	早川結伎	濱多拓也	野本英輔	西原宏紀	中村孝晴	中村未生	中坊希	中根和泉	遠山佳吾	土屋なつき	千野俊貴	立本友里加	瀧本彩	田中翔太	瀬戸智也	柴谷俊也	坂間亮磨	佐々木陽太	腰原美奈子	古賀旺人	小林莉菜	小林佑斗	小岩井倫	小池康稔	栗幅千晶	清沢光晴	北原翔太	河内陽大	上條大輝			
在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	在校生	

H22年
1月発刊

おおぞら

大宙へ・・・未来へのメッセージ 百周年記念誌の予約受付中！



松本市立中学卒業生の皆様による座談会の様子

卒業生による座談会や回想手記も満載

百周年記念事業の大きな柱である記念誌の発刊は来年一月を予定。

記念誌委員会では、現在編集作業を進めております。

この記念誌は旧来型の沿革史中心のものではなく、「自由な校風、自立の精神」すなわち「美須々のところ」をテーマにした読み物風の記念誌です。読んだ卒業生や在校生が「自分たちの学校、美須々ってすごいんだな」と母校を誇りに思えるような「美須々のところ」を伝えていく記念誌です。どうぞ、お楽しみに！

「美須々のところ」をさかのぼって

ここに毅然と聳え立つ樹齢百年の樹―松本美須々ヶ丘高等学校―がある。

特異な生涯・生成の歴史を持ちながら強靱かつ繊細な根を育て、たくましく、伸び伸びとした自由闊達な樹木を形づくってきた。

その精神は「日本一の学校づくりへの旺盛なる意欲」「自由と自立への希求」「美須々ヶ丘ヒューマニズム」「美須々のところ」として生徒、教師、また卒業生の心に生き続けている。

その枝は自主的な学習活動、活発な生徒会活動、クラブ活動、PTA活動として葉を繁らせ、花を咲かせ、実を实らせている。私たちはこの百周年記念誌を編むにあたり、その根、幹、枝、葉にとうとうと流れる精神を、「美須々のところ」と呼ぶことにし、この記念誌の主題としたい。

そして、「美須々のところ」とその根底にある「自由と自立」、それはどんなものであるかを、百年の歩みを振り返って考えてみたい。
(本文冒頭部分より)

百年という歴史の間に、脈々と培われ受け継がれてきた「美須々のところ」。昨今の、吹奏楽部や放送部などの全国レベルの活躍は、その心がまさにいま結実したものと言えます。さらに次の未来に向かって「美須々のところ」を伝えていくために、百周年記念誌は刊行されます。写真など数多く取り入れ、ビジュアル的にも楽しめ、また卒業生らによる座談会、手記も満載。読みごたえがあり、親しみやすい記念誌となります。

松本美須々ヶ丘高等学校 創立百周年記念誌



記念誌の内容

- 第一部 「美須々のところ」をさかのぼって
美須々のところ／生徒会活動／クラブ活動／PTA 教研他
- 第二部 歌で綴る「美須々のところ」
校歌／双蝶祭の歌／応援歌
- 第三部 「美須々のところ」を育てた恩師たち
恩師が語る／恩師を語る
- 第四部 「美須々のところ」で羽ばたく卒業生たち
学問分野／芸術分野／スポーツ分野
- 第五部 これからの美須々～大宙へ～双蝶～
在校生の作文・メッセージ
- 第六部 百周年記念事業「百年の足跡、無限の未来へ」
(上記、都合により若干変更する場合があります。)

判 型 : A4 判変型
頁 数 : (扉、口絵 8 頁、本編 750 頁)
色 数 : カラー、モノクロ
装 丁 : 上製本、布クロス、ケース付き
発行部数 : 1,500 部
価 格 : 5,000 円

購入申し込み : 会報に同封の葉書にて
お申し込みください。

お問い合わせ : 創立百周年実行委員会内 記念誌委員会
TEL / FAX 0263-33-0256

お申し込みは
同封の葉書で



記念誌を
ご購入された方には
校歌・応援歌のCDを
プレゼントいたします。



クラブ活動

平成21年度 県大会進出クラブ

(5/18までの中信大会)

男子ハンドボール 1位

女子ハンドボール 1位

剣道 2位

男子バスケ 2位

サッカー 2位

女子卓球 団体ベスト8

個人ベスト8

男女ソフトテニス

団体ベスト8 個人ベスト8

陸上

女子 200m 1位 400m 1位

男子1500m 2位 5000m 3位 3000障害 1位

女子 100m 8位 女子1500m 7位

男子走幅跳 8位 男子三段跳 8位

平成20年度 文化系クラブ

放送部

第27回県高校新人放送大会

「アナウンス部門」優秀賞 (全国大会へ)

第5回北信越大会

「ビデオメッセージ・オーディオピクチャー部門」優秀賞

吹奏楽部

OB吹奏楽団 第4回定期演奏会

平成21年2月28日 長野県松本文化会館

「ジョイントコンサート2009」平成21年4月1日

長野県松本文化会館 豊科高校・小諸高校

吹奏楽コンクール県大会 金賞



平成20年度 進路状況 (卒業生278名)

大学	51.4%	短大	10.1%
看護専門	7.6%	他専修各種	15.1%
就職	0%	家居浪人	15.8%

人文	9%	語学国際	7%	法学	6%
経済商学	19%	社会	3%	福祉	2%
体育	5%	芸術	3%	幼教保育	9%
教育	9%	理学	2%	工学	7%
農学	2%	薬学	2%	看護	4%
医療	9%	家政栄養	10%		

進学合格状況 (のべ数：含浪人)

国公立大

埼玉・信州・新潟・上越教育・山梨・
高崎経済・島根・福井県立・奈良県立

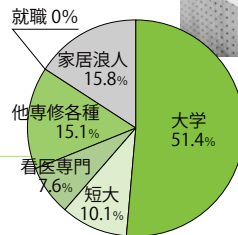
私立大

早稲田・中央・法政・亜細亜・桜美林・国学院・国土館・駒澤・専修・
創価・大東文化・拓殖・玉川・帝京・東洋・日本・武蔵・和光・多摩美
術・東京電機・東京都市・東京音楽・順天堂・文教・独協・東邦・工学
院・神奈川・関東学院・東海・山梨学院・松本・諏訪東京理科・金沢工
業・愛知学院・愛知・中京・名古屋外国語・名古屋学院・名古屋学芸・
日本福祉・名城・京都外国語・京都産業・大阪芸術 他

短大

(公) 長野県・大月・三重

(私) 東京家政・東京農業・信州・信州豊南・
松本大松商・松本・清泉女学院 他



学校近況



地元紙掲載活動から



『コミの分別』生徒会・クラブ

エコ活動で地域とも交流・障害者支援やネ
パールの植林資金に・サッカー部や女子バ
スケ部も中心 (信毎09・2・6)

『バイオ燃料の記事使い授業』

NIE実践指定校「世界の農業とエネルギー
問題」公開授業 (信毎09・2・23)

『若さから元氣もらっ』

特別養護老人ホーム「やまびこの里」地域
ふれあい事業参加
(市民タイムス08・10・22)

『文化系華やか舞台』

中信地区高校文化系活動発表会「万華鏡」
未来の破片参加 (市民タイムス08・12・1)

『手作り卒業式』

友情深めた3年間回顧・保護者地域住民ら
参加 (中日09・3・5)

『100周年記念美須々ヶ丘高校に会館建設』

同窓生の思い結集
(信毎・中日・市タイ09・4・29)

『信州大と英語教育の協定更新』

学生の英語科指導能力向上や高校生の英
語・英米文化理解の促進を図る
(信毎・市タイ09・5・15)

事務局より

□「桜守募金」昭和32年卒有志「桜河
会」代表公保武彦様らが11月12日來
校し、「桜守基金」としてみすずの桜
の維持管理に使って頂きたいと、集
められた募金10万円を同窓会に寄付
して頂きました。

後記

☆五月二十三日みすずの森で仮称
美須々ヶ丘教育会館 (同窓会館) の
安全祈願祭が、同窓会関係者を
はじめ学校や保護者、生徒会、
施工関係者が出席して厳かに執
り行われました。

☆福島昭子同窓会長が挨拶の中で
「強い絆で結ばれているとはい
えない同窓会ですが、西澤賢信
生徒会長が玉ぐしをあげた姿を
見て、これで美須々ヶ丘の在校生と
卒業生がようやく一つの糸で結
ばれた」と感慨深く話していま
した。

☆確かに、百年の学校の歴史とは
はいえその間校名はたびたび変
わり場所も変わった。美須々ヶ
丘高校になる前の卒業生と話し
ても「わたしは美須々ヶ丘ではな
いよ…」とまるで一体感はない
た。

☆十月にはいよいよ同会館が完成
する。美須々ヶ丘がようやく一つに
なつて次の百年に向けて新たな
絆の出発になることを微力です
が応援していきたいと思ひます。

☆三万余の卒業生が世の中に出て
います。その一人一人が無理せ
ず、その時できることをすれば
大きな力になります。自由人、
創造的、ちゃんぽんらん、人な
つこい…そんな美須々ヶ丘の蝶が羽
ばたく時がきたような予感がす
る。

(総務委員会 M・Y)